

大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310104009	設置等相称名	医療保健学部 健康デジタル学科（仮称）
大学名	東京医療保健大学	設置区分	私立	事業計画名	医療保健学部における健康デジタル学科（仮称）の新設
学校種	大学	都道府県	東京都		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
フェーズ1	①令和5年8月 新学科開設準備立上げ ②令和5年8月～令和6年3月 ステークホルダーへの構想・実現に関する聞き取り・WEB調査等（ニーズ・市場開拓）（初年度分）	①令和5年9月1日に健康デジタル学科（仮称）設置準備室を創設した ②各高校を訪問しニーズ調査を行うとともに、大学市場やスポーツ関係者、ヘルスケア産業関係者へのヒアリングを行った。さらに、当初の計画を踏まえて、ヘルスケアスポーツIT（AI・データサイエンス）を担い得た新学科コア能力を実現する新学科コアコンクリート企業（サピオシステムズ社）と検討・精査し市場性・人材確保戦略、学生キャリアパスを作成し、学内に語った。スタディパスと取引基本契約を締結し、WEBによるニーズ調査を開始しコア中心に行う予定であったが、WEBによるニーズ調査は行っていない。 ③令和6年度に予定を後倒しすることとなった。 ④令和6年度に予定を後倒しすることとなった。 ⑤スポーツ業界、医療業界、大学市場の企業との対話を通じて、新学科のプラン（コース設定、カリキュラム、広報戦略）を意見交換を行った。対外的な発表はできていない。 ⑥新たに採用する教員については人脈を通じて話が先行し、一部教員については非常勤講師として採用を行ったが、計画を1年延長したため、基幹教員他の確保は令和6年度以降に予定を後倒しすることとなった。	R5年度自己評価 【2】計画を十分には実施していない。 取組状況に記述したように、キャンパス計画を見直すことを余儀なくされたため、新学科開設年度を令和7年4月から令和8年4月に後ろ倒しすることとなった。 （事業遅延理由）新学科は、学生募集の観点から新棟建設も含めたスペース確保のため、世田谷と五反田にキャンパスを設置する計画であった。しかし、予定していた五反田近郊のオフィス賃貸契約が、当初の交渉時に比べ、借り受け可能な面積が2割削減された上、賃借料の交渉も行き詰まったことから、当初予定していた賃貸契約を継続することが困難になったためその計画を断念し、現在の五反田キャンパス内での施設の改修等も含めた新たなキャンパス計画が必要となった。そのため、新学科の開設時期を令和7年4月から令和8年度4月に変更することとし、キャンパス施設整備に關しても1期、2期工事それぞれ1年後を倒しすることとなった。 【対応策】①他目的で使われている五反田キャンパスの一部施設を改修、②ICT活用による遠隔やオンデマンド講義の比率を高め、新しい学習スタイルに適合した教室計画を見直す、③ICT活用による遠隔授業の比率を高めることにより、社会人学生や発達障害等の障害のある学生等多様な学生に門徒を開き、学びの場を確保するとともに、現有的に開かれた教室スペースを有効活用する
	③令和5年8月～11月 3つのポリシー策定・カリキュラム案策定・学内承認 ④令和5年10月～12月 高校生等との対話・ワークショップ等による発信（マスメディア、Owned Media等） ⑤令和5年10月～12月 産業界との対話・勉強会・ワークショップ等による発信（コンソーシアム、医療施設等）		
	⑥令和5年9月～令和6年2月 基幹教員・その他教員の確保準備		
	⑦令和5年10月～令和6年3月 カリキュラム準備（初年度分）		
	⑧令和5年10月～令和6年3月 施設・設備等の検討、新学科開設の各種準備（初年度分）		
認可申請又は届出	令和6年3月 医療保健学部健康デジタル学科 設置認可申請予定		
フェーズ2 準備し	①令和6年4月～令和6年10月 ステークホルダーへの構想・実現に関する聞き取り・WEB調査等（ニーズ・市場開拓）（2年度分） ②令和6年4月～令和6年5月 カリキュラム準備（2年度分） ③令和6年4月～令和7年3月 施設・設備等の検討、新学科開設の各種準備（2年度分）		○年度自己評価 リストから選択してください。
	①令和6年4月 新学科施設整備 第1期（令和7年2月完成） ②令和7年3月 施設利用開始		○年度自己評価 リストから選択してください。
開設又は定員増	令和7年4月 医療保健学部健康デジタル学科開設予定（入学定員80名、工学関係、保健衛生関係）		
フェーズ2 準備し	①令和7年4月 新学科施設整備 第2期（令和8年2月完成） ②令和8年3月 施設利用開始		○年度自己評価 リストから選択してください。
	①令和7.8.9,10年5月 新入生交流会（学生会・事務局連携） ②令和7.8.9,10年6月 高校教員等対象説明会・交流会（新市場開拓PR・広報部門連携） ③令和7.8.9,10年6月 保証人懇談会（進路選択分析・学生生活フォローアップ・学生支援センター連携） ④令和7.8.9,10年10月～12月 ステークホルダー聞き取り・WEB調査 ⑤令和8.9,10,11年1月～5月 点検評価・学内報告会（5月） ⑥令和7.8.9,10年10月～12月 高校生対象「健康・スポーツデジタルコンテスト」を実施 ⑦令和7.8.9,10年10月～12月 産業界対象「学びから開拓される人と大学」（学生支援センター連携） ⑧令和7.8.9,10年10月 他大学との連携シンポジウム（令和10年総括シンポジウム）		○年度自己評価 リストから選択してください。
フェーズ3			○年度自己評価 リストから選択してください。
			○年度自己評価 リストから選択してください。
			○年度自己評価 リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東京医療保健大学
-------------	-------	-----	----------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>確認の対象に該当しない</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック	
確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	様式1-1に回答したように、計画の遅延を学内で意思決定したため、入学意向調査（ニーズ調査）を実施していないこと、また、対外的なPR活動も実施していないことから定員80名確保できるとのエビデンスは取れていない。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の枠組みを活用するなど出口における資保証にも十分留意することが重要。）	高校教員、受験生、大学受験関連企業、ヘルスケア業界等との情報交換において、データサイエンス系学部学科の競争が激化していることや、高校生へのデータサイエンスの学びに対してニーズが大きくないの懸念もあり、新学科のカリキュラムに際しては、大学を取り巻く外部環境や市場環境を分析して見直す必要を感じている。フェーズの活動においては、受験市場が不確定な状況や他大学の状況を比較検討しながら、新学科のコース編成や受験生のベネフィタ、卒業後のキャリア等を慎重に議論している。事業計画を見直したことから、入学者選抜方法、体制、教育の質保証の仕組み等の検討は次年度以降に行う予定。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	大学のヘルスケア（看護教育、情報教育）の強みとスポーツとIT（AI-データサイエンス）を掛け合わせた新学科コンセプトを実現する為、本学教職員に加え、コンサルファーム（サクセスホルダーズ社）と大学広報に強みを持つ企業（シンクアップ社）とコラボレーションしながら新学科のマネージメント体制や、入試広報戦略、学生キャリアパス等を検討中である。事業計画を見直したことから、次年度以降も検討を継続する。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	上記で検討しているカリキュラムやコース編成に基づき、競技スポーツや実務経験豊富な教員候補者へのアプローチは行っている。しかし、事業計画を見直したことから、本格的な教員確保は新学科のカリキュラムを確定する次年度以降に対応していく予定。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現存する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	文部科学省のPlus-DXや産業DXの支援を受け構築した産学連携コンソーシアム（NTTコミュニケーションズ株式会社、TIS株式会社、株式会社カコム等）や、実用医歯薬院（NTT東日本関東病院等）と、従来より人材や教育内容等の協議を重ねてきた。しかし、ヘルスケアデータサイエンス人材が社会的ニーズがあることは承知しているが、十分な未通しがあるか否かは、さらなる市場調査を行い精査する必要がある。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	本事業計画では、育成すべき人材を「デジタル人材」に定義している。スポーツテクノロジーも同様に、上記に加えて、スポーツ産業、障がい者eスポーツ（株式会社ePARA）、自治体等と連携、ステークホルダーとの意見交換、授業やインターンシップでの協力体制構築、共同研究等を推進を予定しているが、次年度以降に活動を行う予定である。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑩	大学の収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）において、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東京医療保健大学
-------------	-------	-----	----------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑬	選定された大学は、公費要件に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めることに加え、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十九条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>【企業等連携科目】：IT・データサイエンス分野は、産学連携コンソーシアムを中心に非常勤講師、インターンシップ、課題研究などを展開する。スポーツ分野は、京急サービス株式会社との地域連携協定に基づき、同社が指定管理を担う市民体育館等でのインターンシップ実施等を予定する。また、世田谷区の大学生による中学部活動支援制度を養育、スポーツテクノロジーの実践の場につなげる計画である。社会や地域との関わりから学びの意義を探究という観点で、フェーズ1から、ヒアリング・意見交換を行う。【海外大学】：台湾秀傳医療グループと連携協定を結び、関係の深い大学病院も含めた、学生短期研修を2023年から開始した。その他、スポーツ分野で台湾トップクラスの台湾国立体育大学と、教員交流・招待講義の実績がある。また、JWOW大学医学部・看護学部において学生短期研修を10年以上実施している。IT・データサイエンスについては、台湾、ヘルスケアの関わりについてはJARIイイイ、スポーツ技術については、国立体育大学において、合同授業や学生交流プログラムの単位化を前提に、検討する。</p>	<p>【企業等連携科目】 ・令和5年4月26日京急サービス株式会社との地域連携協定を締結し、令和6年度4月27日～5月6日に予定されている健康増進イベントにおいてコラボレーションを行い、連携授業のシミュレーションを行う予定。 ・学研グループと教材づくりで個別に関係をもっているが、令和5年11月頃から、看護師、管理栄養士などの基礎教育及び現任教育（管理者含む）など既存の教科書等に追加して、電子教材の開発を見据えた包括提携を協議中。</p> <p>【海外大学】 2020年に台湾秀傳医療グループと連携協定を結び、関係の深い大学病院も含めた、学生短期研修を令和5年から開始している。さらに、スポーツ分野で台湾トップクラスの台湾国立体育大学と令和5年9月18日に「総合交流協定」を締結した。</p>	<p>左記の連携先との取組みを具体的な合同授業や交流プログラムを検討中のコースやカリキュラムにどの取り込んでいくかが課題であり、（現）医療情報学科の若手教員を中心に構成した健康デジタル学科（仮称）設置準備室にて具体的なプランを検討していく予定。さらに、開設時期が1年後半にずれ込んだため、（現）医療情報学科の授業運営の中で、模擬授業（POC）を行うことで、より高度なプログラムに精度を高めていく必要がある。</p>

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>【入試】：改組を念頭に入試改革を実行中である。多様性尊重し、得意分野を活かす趣旨で、総合型選抜での探究レポート（令和5年度）、一般・共通テスト選抜での高得点重視型（令和6年度）、文系・理系科目の見直し（令和6年度）等に取組んでいる。今後ともIR部局と連携、教学マネジメントの一環として分析評価し、新たに情報科の導入、スポーツや課外活動、外部試験の活用などを検討する。</p> <p>【女子・連携】：高校の探究学習の担当経験から、「生体信号を用いたゲーム開発」、「医療安全テクノロジー」等、生活に身近なヘルスケアやスポーツを糸口とする。特に女子生徒の反応が良いことを実感している。予備講義で教えた際に、特性にあったプログラム提供など、より積極的に社会に訴えて市場開拓するために、フェーズ1、3ととも高校現場との連携や専門家との支援により積極的取組む。</p> <p>【社会人】：専門学校の医師課職員を対象に、実務経験の上にデジタルの専門性を統合する編入学習システム導入の準備をしている。</p>	<p>【入試】 令和6年度入試において、計画通り一般・共通テスト選抜での高得点重視型、文系・理系科目の見直しを行った。具体的には、従来英語を必須科目とし、国語、数学、生物、化学、情報（共通テストのみ）から2科目または1科目を選択することとした。新学科における学生が得意分野や科目を活かして、データサイエンスを通じて学びを進めようという趣旨から、英語を選択とすると、高得点科目の得点を2倍として計算する高得点重視型を新たに実施した。総合型選抜についても、コミュニケーションを重視する趣旨から、取組みのプロセスと気づきを対話の中から評価する面接重視型を導入した。</p> <p>【女子・連携】 高大連携については、共学、男女別学、全日制・通信制併用制など、多様な高等学校の教職員との聞き取り、意見交換を実施した。また、いくつかの学校においては、探究の学びの中で、ヘルスデータサイエンス分野の研究活動について、出張講義やアドバイザーとして関わり、関係性が構築されている。</p> <p>【社会人】 医師課職員や病院情報システムを開発している卒業生を中心に、現場におけるリカレント、リスキリングに関するニーズや、将来の方向性（IT・データサイエンス）について意見収集した。</p>	<p>【入試】 令和6年度入試の結果について、現在関連部門と連携して、量的・質的な分析を行っているところである。目的とする、多様な入学者が確保されているかなど、入学後も含めて継続的な検討が必要である。</p> <p>【女子・連携】 高大連携については、従来単発的なものが多く、今後は連携協定等に基づいた組織的な取り組みが求められる。そのため、現在いくつかの高校において話し合いや準備を進めているところである。</p> <p>女子については、従来から比較的前向きが多いが、データサイエンスやITの観点からの裾の起しが課題であり、高校生を一緒に育てていくことを受け取る観点、マーケットを広げるためのデジタルマーケティングの観点など、今後検討が必要である。</p> <p>【社会人】 ヘルスデータサイエンス人材が必要な総合的な結論は得られているが、社会人の学び直しという観点で、学部編入であるべきか、短期間の養成プログラムで良いのか、修士課程という面も含めて、事務職以外の医療専門職やデータ関連の社会人も含めた設計について検討が必要である。</p>

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東京医療保健大学
-------------	-------	-----	----------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	東京医療保健大学
-----	----------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	670	670																		
		入学者数	人	680	648																		
	その他の学期	入学定員	人	***	***																		
		入学者数	人	***	***																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	670	670																		
		入学者数(B)	人	680	648																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.01	0.97																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	2680	2680																		
		編入学定員	人	***	***																		
		在籍者数(D)	人	2807	2716																		
		編入学者数	人	***	***																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.05	1.01																		

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定-1年	選定		開設			完成年度								
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		77,266	180,635	140,404	116,114	86,718	63,760													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	114,412
本事業による助成金の額(F)	千円	968,240
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	138,618

特記事項

--